

緑の風 FAX版



NO. 6 2020年7月17日 JR東労組

JR 東労組ホームページ

夏期輸送を担っている職場の仲間のみなさん

JR東労組中央本部は、コロナ禍において夏期輸送を担っている全ての仲間の皆さんに敬意を表します。

私たちを取り巻く情勢

緊急事態宣言を解除した5月25日以降、これまで段階的に自粛要請を緩和し、社会経済活動を引き上げてきました。国は、8月1日を目処にイベントなどで観客を収容人数の半分まで、上限なしで認めるよう緩和するほか、県境をまたぐ観光についても徐々に進めていく方針としています。

しかし、新型コロナウイルスの世界的流行は収まりません。全世界での1日あたりの感染者数が約23万人と過去最多を記録し、東京都では感染者数が293人(7月17日)となっています。

JR東日本の現状は、コロナ禍の影響で6月の鉄道営業収入が全年同月比43.5%減となるなど大幅な減収となっています。また、6月の訪日外国人旅行者は昨年と比べ99.9%減となり、収入が大幅に落ち込んでいます。

そのような中、7月22日「Go To Travel キャンペーン」が開始され、旅行需要の創出効果は最大55.1%、最大1.37兆円の市場規模拡大に繋がると予測されていましたが、東京発着の旅行については当面の間支援の対象外となると発表されています。

19年度JR東日本 1日平均 新宿、池袋 14年度以来

駅名	合計	前年度比
1 新宿	77万5000人	▲1.6%
2 池袋	55万8000人	▲1.5%
3 東京	46万2000人	▲1.0%
4 横浜	41万9000人	▲1.0%
5 品川	37万7000人	▲1.8%
6 武蔵野	36万6000人	▲1.3%
7 新大塚	27万8000人	▲1.3%
8 大宮	25万7000人	▲0.3%
9 秋葉原	24万8000人	▲1.7%
10 北千住	22万1000人	0.3%
11 両国	7万8000人	▲5.2%
12 新大久保	4万9000人	▲3.9%

※19年度は、10月1日現在、19年度の乗客数は前年度比で約10%減少しています。また、19年度は、10月1日現在、19年度の乗客数は前年度比で約10%減少しています。

7/17 駅別乗車人員 マイナス相次ぐ
JR東日本は、19年度の乗車人員は前年度比で約10%減少しています。また、19年度は、10月1日現在、19年度の乗客数は前年度比で約10%減少しています。



JR東労組は、組合員の命を守るために、コロナウイルスに感染しない・させないを第一義に安心して働ける職場を全組合員でつくり出して行きます！

また、JR東日本グループ全体がコロナ禍の影響で大きく収入が落ち込む中、経営の危機を全組合員と共有し、危機感を持って、安全に安心してご利用頂ける鉄道の運行をつくり出すために、組合員と共に議論をつくり出して行きます！



健康に留意し、感染拡大防止を第一に夏期輸送を乗り越えていきましょう！